

# 活彩!保健大学だより

AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

第4号/平成13年7月1日発行 青森県立保健大学広報誌



平成13年度青森県立保健大学入学式

## CONTENTS

新学部長挨拶……………	2	サークル活動……………	11
新附属図書館長挨拶……………	3	新入生合宿研修……………	12
新看護学科長挨拶……………	3	パフォーマンスコンテスト……………	15
新理学療法学科長挨拶……………	4	教室(領域・分野・職域等)紹介/看護学科……………	17
新社会福祉学科長挨拶……………	4	//    理学療法学科……………	18
新人間総合科学科目主任教授挨拶……………	5	//    社会福祉学科……………	19
新健康科学研究研修センター研究開発科長挨拶……………	5	//    人間総合科学科目……………	20
新入生あいさつ……………	6	//    事務局企画情報課……………	21
上級生からの歓迎のことは……………	8	人事異動……………	22

[新学部長挨拶]

## 自然に親しみ、学問に親しみ、 人間に親しむ

健康科学部学部長

中村 恵子



2001年4月4日入学式が行われ、今年も新入生164名（看護学科100名、理学療法学科23名、社会福祉学科41名）を迎えました。御入学おめでとうございます。私も新入生と同じように4月から学部長に就任致しました。よろしくお願い致します。昨年までは附属図書館長と看護学科長としてその分野の運営に参画して参りましたが、今年から学部長として看護学科、理学療法学科、社会福祉学科の3学科の教員や学生の皆様にお目にかかるが増えることとなります。新参者の学部長ではありますが、本学の教育理念、教育目標を教育活動や課外活動にどのように活かすかについて、みなさんと共に考えながら、本学を選んで良かったと思えるような学校づくりを考えて参りたいと思っています。

本学の健康科学部は①人間性豊かな人材の育成、②保健医療福祉の発展に寄与できる人材の育成、③地域特性へ対応できる人材の育成、④国際化への対応、⑤地域社会への貢献をめざし、人々の健康と生活の質の向上へ寄与し、ヒューマンケアが出来る人材育成を理念にしています。

入学後から開始される人間総合科学科目は、多彩な教授陣から人間とは、主体的に生きるとは、など知的好奇心を刺激されることでしょう。次いで各学科の専門カリキュラムは、基幹科目、専門支持科目、展開科目へとステップアップするように組み立てられています。各々の学科の特徴や国家試験受験資格を得るための科目に加え、21世紀の保健

医療福祉は連携・協働の重要性が叫ばれることから、学生が大学で学ぶ時から、3学科の枠を越えて学ぶ共通科目があります。共通科目では他学科の学生と場を共にしながら、連携について考える機会になりましょう。

大学は単に知識を詰め込む場ではありません。学生諸君はさまざまな夢を抱き、夢を描いてみてください。その夢に向かって進む基盤を大学時代に培うことができます。その環境は「学生が求めるところにあり」と言えます。大学内の教員・職員、臨地実習施設の指導者や受け持ち対象者、友人などなどです。学校内外のサークル活動では、多くの学生と語り、自分探しをしましょう。メールなどの情報施設設備の活用だけでなく、相手に会って語り合うことによって、高いレベルのコミュニケーションが可能になり、その中から豊かな人間性を育むことが出来るようになります。

青森県立保健大学は自然に恵まれ、特色あるカリキュラム構成、多彩な教授陣を擁していますから、自然・学問・人間に親しむ環境が用意されています。4年間の学生生活では存分に自然に親しみ、学問に親しみ、人間に親しむことを奨めます。

学生のみなさんと共に21世紀に魅力ある学風づくりをしてゆきたいと考えています。ご協力を期待しています。

[新図書館長挨拶]

## 図書館へは、お気軽にどうぞ



附属図書館長  
三栖 郁子

本学の附属図書館も、開館して3年目を迎えました。年々蔵書冊数も増加し、とてもうれしく思っています。蔵書冊数は、現在約55000冊、雑誌受け入れタイトル数は550誌、視聴覚資料としてのビデオとCD-ROMも、1350点となり、充実した図書館として育って来ていると思います。入館者数も平成12年度1日平均235名、平成13年度は新1年生も加わり、さらに増加しています。

図書館運営委員会では、今年は、web上でのサービスとして、ホームページを開設し、図書館活動を充実したいと企画中です。楽しみにしてください。

しかし私は、図書館の利用は、あまり構えないで、先ず、図書館へ気軽に入って、ゆったりと、自分の研究分野にこだわらず、別の世界を歩くつもりで、書籍に触れて頂きたいと思います。自分の研究分野のコーナーのみでなく、多様な専門領域のひとつひとつを眺め、面白そうなタイトルの本を手にとって見ながら、視野を広げて、それから自分自身の専門を身につけるように考えてみてはいかがでしょうか。

インターネットで検索するだけでなく、先ず自分の足で、目を見て、学問全体を眺めてください。人生が楽しく広がることでしょう。

図書館運営委員会では、もっと学生さんからの図書館への、要望・意見をお聞きして、図書館運営に反映させる体制を築きたく、そのため、年に数回、学生自治会との協議の場を設定してはどうか、という意見も出ています。どうぞ、図書館を気軽に利用され、図書館利用のプロになって、図書館運営に良い意見を発して下さることを期待しています。

[新看護学科長挨拶]

## 21世紀、ケアの時代に向けて



看護学科長  
上泉 和子

21世紀の記念すべき最初の年に、看護の道を志す100名の新しい仲間を迎えることができましたこと、とてもうれしく思います。

ところで皆様は「看護の日」ということをご存知でしょうか？5月12日でナイチンゲールの誕生日でもあります。これは看護職のための日という意味ではありません。「看護の日」制定の趣旨には、21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、広く国民が分かち合うことが必要で、このことを、老若男女を問わずだれでも認識するきっかけとなるように、「看護の日」が制定されたと述べられています。

21世紀はケアの時代といわれています。看護の機能は、“人々の生命 (life ライフ) を守ること”は言うまでもありませんが、人々がどんな健康状態であっても、“その人らしく生活 (life ライフ) すること”を支援するのが看護であるといえます。

人を慈しみ支え、そして信頼されるケアを提供できる人材として、実践を支える知識を生み出す人材として、教育者として、変革者として、学生諸君が成長していけるよう大学として支えていきたいと思っています。

本学は看護学のグローバルスタンダードを提供すると共に、日本という文化を大切にしながら、地域に密着したケアを提供できる物の見方と考え方を養えるよう支援していきたいと思っています。学習活動、キャンパスライフ、プライベートライフと、4年間の学生生活の中で、楽しみながら皆さん自身が成長していけるように…、そんな願いを込めています。



[新理学療法学科長挨拶]

人間味と主体性、創造力豊かな  
学生諸君を歓迎します。



理学療法学科長  
佐藤 秀紀

近年の急速な高齢化の進展に伴い、理学療法士に対する社会のニーズはますます高まってきています。その役割は、脳卒中で運動機能、感覚機能が低下した患者さんや、交通事故やけがなどで、筋肉や骨、脊髄を損傷した患者さんに対し、少しでも障害が起こらないように治療したり、仮に障害が起こってもそれを能力障害・社会的不利益にならないように幅広い範囲で対処することです。また、小児から高齢者までと年齢的にも幅広く、さらに急性期の治療から在宅や地域での治療までと、その活躍の場も幅広いものとなっています。

当学科の教員数は6名の医学系の教員と14名の理学療法士の計20名となっており、この数は全国の国公私立大学の理学療法学科では最も充実したものとなっています。理学療法士の専門分野も、地域理学療法、呼吸循環障害、スポーツ障害、発達障害など多岐にわたっており、長年の臨床経験を持った人間味あふれる教員が情熱を持って講義・演習を展開しています。

「人間」相手の仕事ですから、理論だけでなく現実のものとして実践できることが重要で、1年次は見学・体験的、2年次は患者さんに必要な検査などを行う評価方法、3・4年次は実習先の理学療法士の指導を受け、患者さんを担当し評価や治療などの総合的な実習を行います。いくら理論に優れ、卓越した技術を持っていても患者さんの心をつかみコミュニケーションできなければ本当のサポートはできません。その意味で豊かな人間性が求められるのです。また、在学中から医学の専門的な学習を知識として自分のものにしていく主体性が大事ですし、現場に出てからも理学療法士として主体的に取り組む根気が必要です。人間味と主体性、創造力豊かな学生諸君を歓迎します。

[新社会福祉学科長挨拶]

社会福祉専門職をめざす  
みなさんへ



社会福祉学科長  
大和田 猛

最近、社会福祉士の専門職を養成する4年制大学が全国的に数多く設立されています。しかし、公立大学はそれほど多くありません。そのなかでも、健康科学部という学部の中に存立している学科は本学だけだと思います。他の大学の社会福祉学科と異なるのは「健康と生活の質の向上」に貢献でき、一人ひとりの人間の主体的生活の支援を地域社会に根ざして考え実行していく人材を養成するところにあると考えます。

新入生のみなさんは、これまでたくさんの知識を学んで来られたと思いますが、この学科では、これから「人間」を学び、「生活」を探求し、人間の「生命」の尊さを思考することを行動と実践を通して醸成していくことが求められます。社会福祉学はしばしば「実践の学」と言われます。そのためには、日常生活の場でもキャンパスライフを謳歌する場合でも、努めて自分で主体的に物を考え責任を持って行動することを心がけて下さい。心が風邪をひきそうになったら、立ち止まって周りを見渡して下さい。たくさんの仲間や先輩、教職員、地域の人たちがナビゲートし、サポートしてくれるはずです。したがって、いつでも、どこまでも、社会福祉に対する情熱を持ち、他者の立場を考え、約束を守り、相手とコミュニケーションを取り続けられるよう努力し続けて下さい。

本学科は、口先だけ達者な評論家のようなソーシャルワーカーではなく、誠実に実践し、行動する責任感の強いソーシャルワーカーを養成したいと考えています。



[新人間総合科学科目主任教授挨拶]

## 奇妙な忙しさ



人間総合科学科目  
主任教授

羽入 辰郎

上泉先生も大和田先生も言ってらしたが、学科長や主任教授になると妙に忙しくなる。ところがこの忙しさ、何が忙しいとはっきりと言語化出来ないような忙しさで、どこか奇妙なところがある。始終何かの段取りが頭の隅にある。段取りがその通りうまくいくかはその時になってみないと分からない。その不安は押し殺しながら、別の作業に集中しようとする。するとトントンとドアがなる。たいした用ではない。だからさほど時間は取られていない。但し、さっきの状態に頭が戻らない。頭が雑用で細切れの状態にされる。思考は出来ない。但し、思考が出来なければ論文は書けない。授業の準備も出来ない。何のために大学教員になったのかとも思う。ものを考えたかったから。ところが気がつくと、主任教授になってから一行もドイツ語を読んでいない。不安がよぎる。一番勉強していたのは博士課程の頃だったか。あの時のレベルにはもう戻ることは出来ないのか？社会福祉で働いていた期間もあった。ソーシャルワーカーとしての殺人的な忙しさのなかでも、勉強し、論文を書いていた。トラブルがあれば7・8本電話を掛けまくり、よし一件落着きという感じで仕事は進んでいた。明日訪問する病院のドクターにアポイントメントを取り、分厚い内科学の教科書のその患者さんの疾患部分だけをコピーし、泥縄勉強し、明日に備えた。そして昼休みはドイツ語を読んでいて。電車の中ではドイツ語のテープも聞いていた。少なくとも、あの頃よりは時間があるはずなのに、一体何が変わったのか？忙しくは何もないはずだと思う。たとえ何か問題が飛び込んできたとしても、人の生き死にに係わって来る問題であるはずもない。せいぜい2・3時間で片の付く問題であることが多い。ではなぜ思考が出来ないのか？なぜアタフタと忙しく感じてしまうのか？それが分からない。

[新健康科学研究研修センター研究開発科長挨拶]

## 研究活性化の環境づくり



健康科学研究研修センター  
研究開発科長

田崎 博一

研究開発は、教育、研修とともに本学に課せられた重要な役割です。研究開発科は、学術水準の向上、研究活動を通じた地域社会との連携、県民への研究成果の還元などを目指して設置され、研究活動の総合企画、大学と他の機関との共同研究の企画運営推進、研究ネットワークの形成、本学教員の研究に関する支援、若手研究者の育成、研究開発に関する情報発信など、多くのことを課題として活動しています。

本年度も研究支援事業である「健康科学特別研究」の公募を行い、学術研究9題、地域研究17題、奨励研究11題、行政課題研究5題、計42題が採択され、研究活動が展開されることとなります。これに加えて本年度は、研究研修センターの事業として、将来産業化の可能性のある実用的技術等の研究を推進していくことを目的に「実用技術開発研究」を実施することとしました。また、開学当初より、研究成果の発表の場として研究談話会を開催しておりましたが、本年度よりこれを月1回定例化し、本学学生にも参加を呼びかけることとしました。将来的には、地域の関係者にも参加を呼びかけ、研究会、あるいは学会に発展することも念頭において活動していきたいと考えています。

豊かな実りを得るためには肥沃な土壌が必要であるように、独創的な研究が萌芽するためには環境が大切であり、研究開発科は本学の研究活動が活性化するための環境づくりをその任とするものと考えます。同時に、本学には研究成果を県民に還元していく責任があると考えており、研究開発科が地域にあるさまざまなニーズを教員に伝え、また教員の開発したさまざまなシーズを地域に提供していく橋渡しの役割をできればと願っているところです。



## 新入生あいさつ

### 保健大学に入学して

看護学科1年  
長内 優子



(青森県青森高校出身)

入学してから、あっという間に3ヶ月が過ぎてしまいました。高校とはまったく違う雰囲気の中、毎日とても充実した日々を送っています。私は昔からこの大学の近所に住んでいました。この大学がまだ建設中の時から、ここに絶対入りたと思っていました。それと、私は英語が好きなのですが、保健大は英語に力を入れていると聞いた時、まさに私の理想の学校だと感動していました。そして今年、念願かなってこの大学に入学することができて、とてもうれしく思っています。

高校の時の受験のための勉強とは違い、大学では自分の興味のある分野を存分に学ぶことができ、とても勉強が楽しく感じられます。それに、この大学は設備も整っているし、環境がとてもよいので集中力もやる気も高まると思います。先生達もさまざまなタイプの人達がたくさんいて、とても楽しいです。先生達は、私達のことを「先生と学生」という関係ではなく、一人の大人の人間として見てくれているような気がします。その様などで自分はもう大学生なのだと、改めて自覚させられます。

最初は人数の少なさにちょっと不安を感じていましたが、その分、先輩や同じ学年の人と仲良くやっていけると思っています。サークルもとても楽しく仲良くやっていて、サークルがある日がとても楽しみです。

毎日、勉強とサークルとバイトで忙しく休みがほとんどない日が続いていますが、大学生活がとても楽しくとても充実しているため全く苦痛に感じられません。新しい大学なので、伝統などが無い分、何でも積極的に色々なことにチャレンジしていきたいと思っています。同じ夢を持っている仲間と互いに刺激しあいながら、これから4年間充実した日々を過ごして行けたらいいなと思っています。

### 二度目の春を迎え…

理学療法学科1年  
清水 俊行



(兵庫県出石高校出身)

「あなたは、この道を選んだ時のことを覚えていますか？」もし忘れていたなら、思い出してみてください。人それぞれ、選んだ理由やきっかけは違うとは思いますが、人それぞれ、この道に対する思いは違うとは思いますが。けれど、「医療福祉」という道を選んだからには他の職業とは違い自分以外の人に対して責任が伴ってくると私は思います。

私は去年まで他大学の他学部在籍していました。まだスタートラインですが、今年やっと自分が本当にやりたいと思えるこの道に立つことができました。遠回りしたように思われるかもしれませんが、自分としては全く思いません。本当にやりたいと思うことができる機会を得ることができたと思うからです。しかし、自分で人生を決めたからには大きな責任も伴ってきますが…。

大学生活は自由です。親と離れ開放感がいっぱいですが。しかし、自由な反面、誰からも干渉されない反面、その自分の取った行動に対する責任は自らに振りかかってくることを、その責任を自らで取らなければならないことを忘れてはならないと思います。

“ALL ROADS LEAD TO YOUR FUTURE!”という言葉があります。直訳すると、『すべての道は未来へとつづく』となります。つまり、今自分の行動がそのまま自分の将来につながっているということなのです。だから、今この時を精一杯大切に後悔がないように頑張りたいと思います。

私はこの四年間で、この道を選んだ時の気持ちを忘れずに、多くの友達と接しつつ、医療に携わる者としての責任と自覚を学び、人として、医療従事者として大きく成長したいと思っています。



## 保健大学に入学して

社会福祉学科1年  
佐藤 優希

(青森県八戸高校出身)

入学して以来、緊張の連続だった大学生活にもようやく慣れてきました。初めのうちは、何をやるのにも不安がつきまわってきて、本当に不安で不安でしょうがありませんでした。4月の合宿研修では、先輩方がレクリエーションをいろいろと用意してくださっていて、とても楽しかったです。しかしその反面、教科書通りの勉強だけをしてきた何も知らない私達が、高校の勉強の範囲とは全く違う、今まで習った事がない分野について学ぶのです。この、今のままの自分では絶対に通用するはずがない、という思いを改めて確信させられました。そう思うと、どうしても不安が募ってきて、これから始まる大学生活に対する不安と戸惑いを隠しきれませんでした。

しかし、実際に講義を受けてみると、初めこそ、余裕がなく、ただ荒ただしく受けていた講義も最近では「おもしろい」と感じる事ができるようになりました。今までの、詰め込み型の勉強と違う講義のスタイルは、私にとってとても新鮮で、やりがいのあるものへとになりました。講義を受けるのが待ち遠しくて、仕方がありません。

しかも、教えてくださる先生方の話のテクも上手なのですが、それより何よりも先生方の人間の深さ、厚さに頭の下がる思いです。かなり尊敬します。憧れます。ですから、先生方は私の目標です。目指すならとことん上を目指します。

私は、知識を吸収することも大事だとは思いますが、自分を磨く事に一番力を入れたいと思います。広い視野で物事を見ることができ、人を労る事のできる人を目指します。そして、人に恥じない自分でありたいです。そのために私は、じっくりと4年間かけて自分を熟成させたいと思っています。







## 上級生からの歓迎のことば

### 有意義で楽しい大学生活を

看護学科2年  
木村 能久



(青森県青森高校出身)

入学当初、若干積もっていた雪もすっかり溶け、若葉も萌えはじめ、加えて我が大学の駐車場にも若葉マークが増えはじめた今日この頃、いかがお過ごしでしょうか？

新入生の入学により、去年より全学生の数が1.5倍に増えたことで、食堂内には入りきれず、外で食べることもしばしばあるのですが、非常に活気あふれ、より明るい雰囲気になった様気がします。

わが大学は、設立して3年目ということで、新しい立派な設備の中で大学生活を送っているのですが、まだまだ白紙状態のものがあります。その白紙をうめるために、1～3年生、全学科で協力できるよう、学年、学科に関係なく交流ができることを望んでいます。

皆さんは、保健、医療、福祉の専門家として勉学に励むため、この大学に入学したと思いますが、ただ講義による勉学だけではなく、サークルやボランティアなどの学外活動を通じ、いろいろな出来事や多くの人々に触れ、体験することによって、様々なことを吸収し、実践できたらと願っています。

また、大学の勉強もレポート提出など、既に体験して大変さがわかっていると思いますが、看護学科1年次の看護体験実習は、ほんの2～3日ですが、その時は放心状態になり、病院内で働く看護婦(士)の大変さが、身にしみてわかります。そのため、あまりの大変さに失意に陥るかもしれませんが、そんな時は同級生や先輩方、先生方に相談すると、きっとよい答えが返ってくると思います。

最後に、ただ大学生活を送るというのではなく、周りの皆と苦楽を共にし、有意義かつ楽しい大学生活ができるようお互い頑張りましょう。

### 新入生歓迎のことば

理学療法学科2年  
後藤 祥子



(山形県鶴岡高校出身)

164名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、理学療法学科3期生の23名の皆さん、ようこそ理学療法学科へ。新入生の皆さんは体験する全てが初めてのことで、戸惑うこともあるかもしれませんが、けれど、そのひとつひとつの戸惑いが、経験となり、時には思い出になるでしょう。大学生活に慣れることも大切ですが、入学当初のことを忘れずに、張りのある大学生活を謳歌してください。

理学療法学科の新入生のみなさん、理学療法の基礎科目、英語など人間総合科学科目、新入生歓迎会、初めての試験、色々なことをもう体験したと思います。サークルや新入生歓迎会などの楽しかったこと、試験で辛いこともあったでしょう。一年生の前期は比較的楽な授業構成ですが、理学療法学科の基礎中の基礎の科目なので、授業をよく聞き、学び、しっかりと受け止めて下さい。理学療法学科には、他の学校の理学療法学科より多くの理学療法士の先生がいます。それはとても良いことであり、恵まれていることだと思います。先生方は専門分野の知識、臨床の体験、人生経験等、様々なことを教えて下さると思います。授業でわからなかった事、知りたい事があれば、どんどん先生に聞いて、知識を蓄えて下さい。

勉強ばかりする人生、赤点ギリギリの人生、サークル活動にうちこむ人生など、色々な人生があります。これまでは家族の人達にその人生を決められたり、友達に左右されていたかもしれませんが、しかし、大学生になったのですから、その人生を自分で決め、その判断で起きた責任も自分で受け止めることが必要になると、私は思います。辛いこともあるでしょう。しかし、それを楽しくする努力も必要です。それでは、よい大学生活をお送り下さい。



### 多くの人と出会って ください

社会福祉学科2年  
渡部麻衣子



(秋田県大館鳳鳴高校出身)

開学3年目を迎え、皆さんが入学してから3ヶ月が過ぎました。昨年はどこか寂しさを感じられた学内がにぎやかになりうれしく思っています。

親元や慣れ親しんだ土地を離れての生活は大変なことが多いかと思いますが全国から集まった仲間たちと出会える場でもあり、自分を成長させる良い機会でもあります。そして、学生時代に会った友人というのは一生の友達になっていくでしょう。一人暮らしで淋しくなった時、大学生活で悩んだ時、自分では抱えきれないものを受け止めてくれるのはやはり友人だと思います。もちろん、楽しい時に思いっきり笑い、時間を共有できるのも友人だと思います。皆さんは出会ってまだ3ヶ月です。友人関係に悩んでいる人も中にはいるかもしれませんが、ですが時間をかけて大学生活を共に過ごす、本音でつきあえる友人を探して行ってください。自分が本音でぶつかったならきっと出会えると思います。

大学生活は自分から積極的に行動しなければただ時間だけが過ぎていきます。レポートや試験に追われ「そんな時間はない!!」と思うかもしれませんが時間は作るものだと思います。時間を作り多くの人と出会ってください。学内に留まらず、年齢や立場を超えて交流をしてください。自分とは違った価値観に触れ、豊かな人間性が身につくと思います。将来、専門職に携わる私たちには豊かな人間性も必要とされます。それを育てる機会が今なのだと思います。そして出会った人も良き友人となっていくことでしょう。

これから4年間多くの人と出会って、人間性豊かな人に成長して行ってください。最後になりますが、悩んだときには先輩たちに声をかけてください。きっといい答えが返ってくると思います。そして、先輩・後輩関係に縛られない友人関係を作っていきましょう。

### 責任感を持って

看護学科3年  
中西志津枝



(青森県八戸高校出身)

1年生が入学してから、早いもので4ヶ月が過ぎようとしています。大学全体の学生の人数が私たち1期生の時よりも約3倍となり、去年よりますます活気に満ち溢れ、明るくなったように感じています。1年生の皆さんは、大学生活にも慣れ、講義の面白さや難しさなど、個人でいろいろと考えることもあるのではないのでしょうか。また、友人も数多くでき、出身地の違いから、地域別の特徴を感じている人もいることでしょう。

1年生が入学したとはいえ、なかなか1年生と交流する場がなく、残念に思っていますが、私にとって1年生と話をしたり、活動したりできる場がサークルです。講義内容や試験についてなど、様々な話ができることをうれしく思い、先輩・後輩の枠を超えて、これからもこのような関係を続けていきたいと思っています。ですから困ったことがあったら、是非相談してください。私たちがこれまでに得た知識が少しは役に立つと思います。また、大学において私たちに求められるものは、「責任」であると感じています。大学は、個人の自由を尊重し、やりたいことができる場でもあります。しかし、その背後には必ず「責任」があるということを忘れないでほしいと思います。この「責任」は将来、医療従事者となり、現場で活躍する場でも必要不可欠です。現在、問題となっている医療事故においても、個人の責任が問われています。1つ1つのケアにおいて、個人の責任のもとで行われなければいけないことは当然のことです。このことは、医療従事者になろうとしている人にも言えることではなく、大人としての重要な要素でもあると言えるのではないのでしょうか。この「責任」を自覚しながらも、勉強だけでなく、サークルやバイトなど、自分のやりたいことをしてこれから4年間の大学生活を充実したものにしたいと思っています。



## 上級生からの歓迎のことば

### こんにちは

理学療法学科3年  
佐々木ゆり



(北海道函館中部高校出身)

1年生のみなさん、はじめましてこんにちは。もうそろそろ入学し一年の前期も終わり、大学生活には慣れましたか？ホームシックは大丈夫ですか？どうですか？地元に戻りたくはないですか？私はもう3年目なのにまだです。函館に帰りたいたしがしばしばあります。みなさんも、家族とたくさんコミュニケーションを取ってください。

大学生活は長いようで短いという話をよく耳にします。私も2年間過ごしてみて、この2年間は長いようで短く、しかし短いようで長いようなそんな感じです。この4年間には、たくさんいろいろなことがあると思います。辛いことや、幸せなこと、楽しいことや、悲しいことや。けど、頑張ってください。っていうか、お互い頑張りましょう。けど、いつも頑張るのは疲れるので、ほどほどにマイペースで過ごせればよいかと思います。ときには休んだり。ときには自慢の腕をみせたり。ときには底力をみせたり。

自然とたわむれることは己の集中力を高めるとい話をよく耳にします。青森は山と海に囲まれた自然いっぱいの町です。海に行き遊ぶのもよし。山へ行って雄大な景色を見るのもよし。温泉に行き日頃の疲れを取るのもよしです。

では、これから4年間それぞれの4年間を過ごしてください。

### 新入生の方々へ

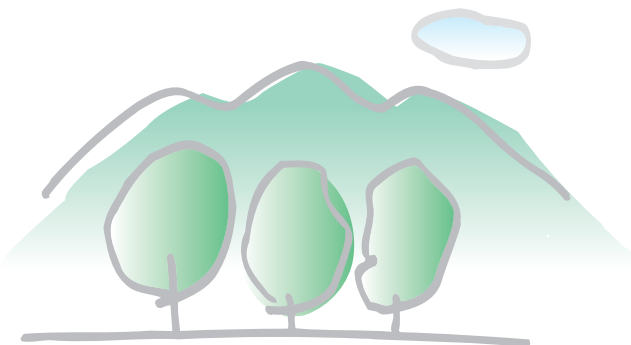
社会福祉学科3年  
千葉 尚史



(岩手県大船渡高校出身)

入学してもう3ヶ月あまり経ちましたが大学には慣れましたか？言葉が分からなくて苦労していませんか？(私も青森に来てすぐのときはだいぶ苦労しました。(笑))大学で行う講義は高校の授業とは違い内容が濃く講義数が多いため自分たちが考えていた大学生活とはかなり違ったものになっていると思います。でも時間が経てば今は辛くてもだんだん楽になっていくと思うので新入生の皆さんがんばってください(特に社会福祉学科の学生は後でかなり楽になるのでがんばってください)。

私たちは一期生だったため先輩がいなくてどのようにして友達を作ったらよいのかやサークル活動のしかた等様々な面で苦労しました。でも自分たちがこの大学を作る基盤になるということは今思えば苦労した分いい思い出となると思います。でも逆に先輩がいないことによって自分たちの好きなようにできたことはとてもよかったと思います。ですから新入生の皆さんも自分たちの好きなことを一生懸命やって下さい。先輩をあまり意識しないで何といたってまだ大学が開校してからたった3年しかたっていないのですから何をしても誰も文句は言わないと思います。大学は自分たちでやりたいことを見つけることが大学生活の始まりだと思うのでどうぞ自分のやりたいことに向かって進んでください。そしてそれが大学生活であなた自身を成長させることとなりますから。





### 野球サークル 目指せ神宮

マネージャー(社会福祉学科2年) **高嶋 恵美**  
(顧問/教授 伊藤日出男)

目指せ神宮は、軟式野球のサークルです。保健大は圧倒的に女子が多いので、選手一人にマネージャー一人がつく感じです。そのため、選手を集めることは大変でした。でも、一年生にもいい選手がいっぱい加わり、ますます強くなっています。主に土・日曜日に活動して、練習試合も積極的に行っています。平日にみんなが集まるのは難しいので、何人か声を掛け合って自主練習という形で活動しています。サークルに入っていないくても練習に参加している人もいて、結構自由に練習しています。

去年の練習試合の成績は、七勝二敗で好成績でした。守備の面では投手も良く、内野・外野のチームプレーがよく出来てきた結果だと思えます。今年は、打線がもっと強くなることを期待したいです。そして、今年は初めて国体予選に出場するので、さらに気合いが入っています。土・日曜日もちろんのこと、平日でも集まれる日は練習して試合に備えています。

メンバーは、先輩・後輩、選手・マネージャーに関係なく、みんなとても仲が良いです。そして、みんなとても個性的な人たちなのでとても楽しいサークルです。みんな野球が好きなので、楽しく練習していますが、勝負には真剣なので練習にも厳しさがあります。練習や練習試合を繰り返しているうちにチームワークもとれてきて、いいチームになってきています。

これからもみんな仲良く、楽しくサークル活動していきたいと思っています。



### Music Circle

代表(看護学科3年) **中島 郁世**  
(顧問/助教授 佐藤恵子)

私たちミュージックサークルは音楽(特に声楽)に興味のあるメンバーの集まりです。オペラや合唱、ドイツやイタリア民謡などを中心に歌っています。オペラ、なんて聞くと身構えてしまう人もいるかもしれませんが、私達サークルは、歌を歌うことを楽しむ、ということを大前提にしており、それぞれが気持ちよく、楽しく過ごせることを目的に活動しています。だから、上手い下手に関係なくそれぞれがそれぞれに満足できるような音楽をしていきたいというサークルなのです。楽しむことが第一なので、私たちは音楽以外にも、お菓子を作ったり、音楽を聴きながらお茶会をしたりなどのんびりと活動しています。特に、毎年大学祭で出展する手作りケーキの店“オペラ”は、学内外でも大評判の店です。メンバーは少人数ですが気さくで明るい人が多く、とても仲がよいです。歌の好きな人たちなので、実習が忙しくても、できるときはなるべく活動しています。

皆で一緒に大声で歌を歌い、その時間を共有できるということは素晴らしいことだと思います。歌には喜びや悲しみなど、人間にとって普遍の感情がこめられています。私たちはそういう歌を通して、仲間と一緒に楽しく活動していきたいのです。



## 新入生合宿研修の あらまし

新入生合宿研修実行委員会  
委員長 米澤 國吉



本学新年度の恒例行事となっている新入生合宿研修が、平成13年4月6日～7日、市内青年の家で行われました。当日は快晴のもと、上級生共々教職員が新入生と交流し合いました。この研修は、新入生が原則として全員行事参加・宿泊とし、本学開学当初から毎年実施しております。平成12年度から、上級生の参加も得られ、特に今年度のレクリエーションは、主体的な学生の関わりもあって、予定どおりに無事終了することができました。研修の概要は、下記のとおりです。

## 新入生合宿研修の目的

本学では、青森県立保健大学の学生としてスタートするに当たり、より充実した学生生活をおくするために次のような3つの視点で合宿を行っております。

- (1)本学の教育方針、教育内容を理解する。
- (2)看護学科、理学療法学科、社会福祉学科の学生相互交流を行い、友達の輪を広げて実りある学校生活を行うための土壌作りを行う。
- (3)学生と教職員との交流を深め、両者の信頼関係を深め、よりよい教育の実践を行うための環境づくりを行う。

それでは、今回の合宿研修の内容をご紹介します。



初日、到着後のオリエンテーション



## 研修初日のであい



初日夜の相談コーナーでは「学長特設コーナー」が賑わいをみせていました

1日目の午前中、新入生は、大学内で学生生活に欠かせない履修登録や試験のこと、学内施設の利用や事務手続きなどの新入生ガイダンスを受講し、午後から青年の家にバスで移動しました。

新道学長挨拶や青年の家所長挨拶などオリエンテーションを行い、続いて人間総合科学科目のオリエンテーションを実施致しました。次に、学科別に分散してのオリエンテーションを各学科教員の創意工夫のもとに実施致しました。

夕食後の専門職のいざない&相談コーナーでは、学科別に相談コーナーを設けたほか、上級生が相談にのる学生コーナーも同時にスタートさせ、新入生の人気も大変高かったようです。

新入生は、本学チューター制度の教員をはじめ、



初日夜の相談コーナー  
授業担当教員や上級生との交流

これからスタートする授業の担当教員との出会いと上級生の交流という機会をえられたことと思います。

## 上級生の主体性がいきる

2日目は、上級生有志によるレク実行委員会と学生自治会によるサークル紹介やレクリエーション交流の時間と致しました。学生自治会会長の挨拶やサークルの代表者からのアピールは、新入生にどのような受けとめられたのか、今後の楽しみなどところです。

レクリエーションでは、教員レク実行委員会と上級生レク実行委員会とで企画準備した3種目を研修参加者全員で交流致しました。新入生はもちろん、新しく赴任された教員の参加もあり、良い汗を流すことができたと確信しております。

青年の家の方々のご協力もあって、2日間を気持ちよく、過ごすことができたようです。

今後は、開催場所や合宿の必要性、教員や上級生の参加形態、研修運営などを検討して計画的に次年度に向けた準備を進めていくことが求められますが、新入生が本学の学生としての自覚と、気持ちの良いスタートを切ってくれたものと思います。



やはり一番盛り上がったのは2日目のレクリエーション？



## 反省会から

研修終了後、新入生合宿研修実行委員会で反省会を持ちました。その概要は、次の3点です。

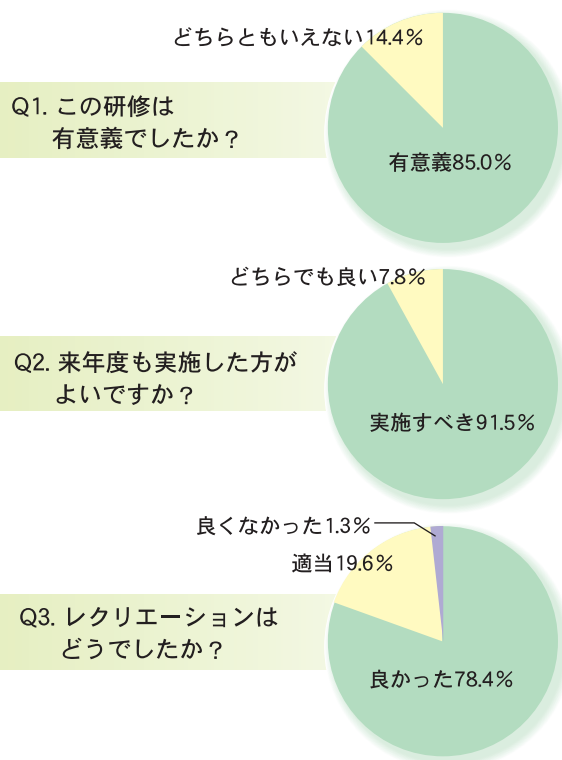
- (1) 今年度の合宿研修は、おおむね成功であった。
- (2) 合宿研修の運営等についての課題は以下の4点。
  - ① 準備期間をもっと早くすべき。
  - ② 合宿研修運営の主体については学生・教員が一体となって行うべき。
  - ③ 教員の参加区分の検討。
  - ④ 開催場所・宿泊の必要性の検討。
- (3) 最終的に、合宿研修の課題は学生委員会に引き継ぐこととし、今年度の合宿研修実行委員会は解散となった。

つぎに、反省会で出された実行委員の特徴的な意見を紹介します。

- 今年度の上級生参加者募集は、来てくれそうな学生に依頼し、協力していただいた（全員に声をかけた訳ではない）。合宿研修への取り組みは1～2ヶ月前からではなくもっと早い時期から、学生自治会など上級生の意見も吸い上げて、レク企画のように学生主体で行ってよいと思う。
- 上級生が「レクは自分たちに任せてくれればできると、頼もしいことを言ってくれた。
- 宿泊で行うことには、意義がある。
- 準備を早めに行った方がよい。専門職へのいざない・相談コーナーは特に有意義であった。
- 学生は緊張して入学してくるので、友人作りのきっかけとして宿泊には意義があるのでこのままのスタイルで残して行ってよいのではないか。
- 準備を早めに行った方がよい。レクに関しては、学生が実質主体で行っているので来年度も任せてもよいと思う。

## 学生アンケート評価

この研修終了直後に新入生にこの研修に関するアンケートを実施したところ、新入生164名中、153名からの回答を得ました（回収率：93.3%）。全体的に良い結果でした。少しご紹介しましょう。



新入生の自由回答として多かった意見は、楽しかった（37名）、大学生活についての疑問が解消できた（17名）、長かった（17名）、大学でやることがわかった（16名）、大学での勉強が少しわかった（14名）、仲良くなれた（友達、先生、先輩）（9名）、先生が熱心・楽しい（7名）、安心できるようになった（6名）、学友らとの交流が良かった（6名）等でした。アンケートの結果からも合宿研修の意義は大きいと思います。

最後に新入生が、印象に残ったこと、役に立ったこと、要望等を表1に紹介します。

表1. 印象に残ったこと、役に立ったこと、要望等

項目	人数(名)
友達	27
先生	16
レクリエーション	13
先輩	13
いざない／相談コーナー	10
大学生活	10
様々な人との交流(話す機会)	6
部屋グループでの交流	5
入浴	5
意欲・励み／安心	5
説明が多い	4
学長との交流	3
同じ学科の人と話せるようになった	1

話しことばによるコミュニケーションは、話す内容や話し手の気持に合った声の調子、顔の表情、ジェスチャーなどで補強することでより効果的なものとなります。本学の必修英語演習は、最終テストの一部として学生たちにパフォーマンス・テストを課し、この点を再確認させます。通常の演習では、教室という決まりきった環境の中で特定の教師やクラスメイトだけを相手に具体的な事実について話し合うことがその中心になりますが、最終テストに至る数週間、これを想像と創造の世界にまで広げます。想像や創造もまた意志の疎通には不可欠ですが、特に異文化間コミュニケーションにおいては、想像力の助けを借りなければうまくいかないことがよくあるからです。



Winters

ということで行われてきたパフォーマンス・テスト及びコンテストですが、我が保健大学の新生諸君、詰め込み式受験勉強の中で想像力も創造力もなくしてしまっているに違いないと思いきや、どうしてどうして、彼ら彼女らの想像力と創造力は未だ健在。目から鱗。この一文を読まれた皆さん、ぜひ一度コンテスト会場に足を運んでみてください。

さて、そのコンテストですが、英語演習の最終ユニットである Creative English 2 のプログラムも残り少なくなってくる頃、各クラスでは学生たちが2～5人のグループを作り、「出し物」を決め、台詞を英語で書き、1～2週間の練習を行っ



Let's sing a song



Short stories

てパフォーマンスを披露します。それを担任の教師が採点します。全グループのパフォーマンスが終了すると互選によってコンテスト出場グループを決めます。コンテストは平成11年度も12年度も10組のクラス代表チームによって競われました。11年度の審査員には学長、学科長、学科長代理、主任教授、ゲストスピーカーの方々をお願いしましたが、12年度は、事務局長、学生会長にも参加して頂きました。また、優勝、準優勝、三位の他にベスト・パフォーマー賞も新しく加えられました。



Stocking

ところで、当の学生たちはこの企画をどう受けとめているのでしょうか。無記名アンケートに表われた声で、肯定的なものは平成11年度75%、12年度87.5%。否定的なものは11年度8.7%、12年度8%。どちらにも属さないと思われるコメント及びノーコメントは11年度16.3%、12年度4.5%でした。以下にそれらの声の中からいくつかを紹介します。



Café Ole

「楽しかった。1回じゃなく何回やってもいいと思った」「みんないろいろなアイデアをもっていてめちゃめちゃ楽しかった」「いいなーと思いました。1から10まで自分たちがつくって、協力感っていいと思いました。いい汗かかせていただきました」「楽しい。自分たちで考えるものと実際



Peach Boy



Magic Show



TV Shopping

と実際の会話では言い方が異なること、文化も関わってくるのが分かった」「恥ずかしかったが自分を表現するよい場であった」「自分を知ってもらえる良い機会でもあったし、友達の違う一面が見れてすごく良かった」「今までにやったことがないような事だったので楽しかった」「とてもユニークで面白かった」「今までのテストの中で一番楽しかった」「自分からやろうとする意欲が湧いていいと思う」「Good! Very interesting! みんなすごかった」「すごいいい経験になったし、思い出に残った」「たのしい!! 続けるべき。コンテストは2, 3年生も見に行けるようにしてほしい(講堂でやるとか)」「いい経験であったが辛かった」「大学生がやることではないと思う」「恥ずかしいからやめてほしい」「自分たちのつくった英語だったのでとても楽しかった」「英語でパフォーマンスすることなんて一度もなかったのでいい経験になった」「始める前はいやだって思ってたけど、始めてみるとおもしろかった。自分たちで全部決めていくっていうのもいいものです」「大満足!! 楽しかったー! あんなすごい賞もらっちゃっていいのか? と思った」「賞品出してください、図書券でいいから」「見る分には楽しいけどやる分にはつらい」「楽しかった。英語を話すのみならず、表現力を問われるものであるからだ」「最初はすごくたいへんなことに思えて嫌だったが、やってみるとみんな楽しくできたし、コンテストのみなはすごく楽しくて、去年の中で一番笑ったし、楽しめたことだった」「英語力が高まったように思う」「おもしろすぎる」



## 「日本人にとってのspirituality」

医療・保健・福祉のさまざまな領域で、「spirituality」という概念が話題になっており、雑誌などでもしばしば取り上げられています。WHOの健康の定義にこの概念を含めるかどうかで議論になったことは記憶に新しいところです。日本でもこの概念について論じられるようになりましたが、残念ながら、その議論は「spiritualityとは何か」という段階にとどまり、それ以上の本質を論じるには至らないようです。「文化の違い」ゆえに理解できないと説明されてしまうことが多いのですが、ほんとうの問題は別のところにあるのではないのでしょうか。いつの頃からかはわかりませんが、日本人は形あるもの、目に見えるもの、比べることができるものにしか価値を見出せなくなっていました。ものを手に入れることで安心し、多く作ることで評価され、競争に勝つことで認められます。しかし、それらはすべて人間の外側です。外側を飾ることに汲々とし、内面に目を向けなくなってしまいました。今、自己の内面と向き合い、心を磨き続けている人がどれほどいるのでしょうか。かくいう私も外側だけの人間です。このような日本人が「spirituality」の議論をすることなどおこがましいのかもしれませんが、よく考えてみてください。今の状態は、決して本来の「日本の文化」ではありません。古典を紐解けば、日本人がしっかりと自分自身と向かい合っている姿が描かれています。ある時代まで、多くの日本人が確かに「spirituality」を理解していたのです。暴力、虐待、怒り、いじめ、自己中心、無関心、ひきこもり……。心が壊れつつあると言われます。外側を飾り続ける限り、心の崩壊は続くのかもしれませんが。(文責：田崎博一)

### <精神看護学領域>

教 授/Pamela Minarik、田崎博一  
 助教授/藤井博英  
 助 手/板野優子、佐藤寧子



向かって左から板野助手、藤井助教授、ミナリク教授、田崎教授  
 円内は佐藤助手

## 「生活者としての視点」

地域看護は、地域で生活している人々の健康やQOLの向上を目指した活動です。地域で生活している人すべて、つまり「患者」だけでなく住民として生活している個人、家族、そして地域そのものを対象としています。ということは、大学生として「生活」している学生のみならず自身も、地域看護の対象者ということになります。

さて地域看護に関する講義等は、3年次後期から地域看護援助論が始まり、続いて4年次前期に地域統合実習が行われます。地域統合実習は、青森県内各地の保健所や市町村、訪問看護ステーションなど地域看護を実践している保健婦(士)・看護婦(士)のもとで、集中実習を行うものです。この他にも関連する科目として、家族援助論、健康教育論、保健福祉概論Ⅰ・Ⅱ、保健概論、疫学と保健統計などがあります。

地域で生活している人々と向き合うとき、自分自身の生活者としての視点がとても大切になってきます。いつでも、いつまでも生活者としての自分を持っていて欲しいと思っています。(文責：工藤奈織美)

### <地域看護学領域>

教 授/竹森幸一  
 助教授/山本春江、城島哲子  
 講 師/細川満子  
 助 手/三津谷恵、工藤奈織美



後方左から細川講師、城島助教授、山本助教授  
 手前左から三津谷助手、工藤助手、竹森教授

## 地域理学療法学分野

(伊藤日出男教授、勘林秀行講師、桜木康広助手、斉藤圭介助手、盛田寛明助手、李相潤助手)

一般によく知られている理学療法は、病気やけがで入院している患者さんに、筋力強化訓練や平行棒を使っての歩行訓練などを行う機能訓練でしょう。地域を基盤として実施される理学療法についてはあまりよく知られていません。しかし、その歴史は1960年代にさかのぼります。1983年に老人保健法が施行されてからは、保健婦さんとともに地域の障害者に様々な支援を行う、いわゆる機能訓練事業が各地で実施されるようになりました。青森県でも全国に先駆けて訪問理学療法やりハビリ教室が各地で実施されてきました。残念ながら、理学療法士の絶対数が不足していることや地域理学療法があまり認知されていないために、この分野の理学療法士はあまり増えていません。昨年からは介護保険制度が始まり、訪問リハビリテーションがサービスメニューになりました。これを契機にこの分野が益々発展することを期待しているところです。

病気やけがで何らかの障害が発生あるいは発生の可能性があったとき、病院などである期間リハビリテーション医療を受け、そして自宅や施設で何十年も生活するわけです。じつは、病院でできたことが自宅ではできないことがあったり、風邪や転倒をきっかけに寝たきりになってしまうことすらあります。地域における理学療法士の役割は、対象者の身体の機能だけでなく、家族も含めた生活障害を適切に評価し、専門的な指導によって、より活動性の高い生活習慣を定着化させ、人間的な活性化を図ることです。具体的には、運動機能を高める機能訓練、日常生活動作の指導、装具や車いすの適合チェック、家族への介助方法の指導、家屋改造といった、直接生活障害の改善につながる指導と、ヘルパーや訪問看護婦などへの指導、在宅ケアシステムに関わるアドバイスなど、多岐にわたります。それぞれについて評価方法や方法論、有効性の検証が必要です。またそれだけでなく、健康増進、疾病予防などの地域保健業務のなかでも理学療法士の役割は今後期待されています。我々の研究課題は、在宅ケアにとどまらず、地域保健における理学療法の有効性と役割について検証すること、そして、多くの人に知ってい

ただくことです。

今我々が取り組んでいるのは、下北半島に位置する大間町、東通村、横浜町、六ヶ所村に月に1回出かけて在宅障害者への訪問指導を行い、どのような効果があるかを確かめることです。現在までにわかったことは、日常生活動作の改善だけでなく、家族への精神的な面へのサポートにもなっているということです。また、保健・福祉の担当者に対してもリハビリテーションの視点に立ったケアマネジメントの必要性について啓発できたことです。東通村では早速理学療法士が1名採用されました。

もう一つの課題は教育方法についてです。第1期生が今、地域理学療法の授業を受け始めたところですが、つい先日我々が研究を実践している下北地域での体験的実践授業を行いました。全国的にも地域理学療法に関する教育の歴史は長いとはいえません。保健大学の教育目標に「保健医療、福祉の発展に寄与できる人材の育成」「地域特性に対応できる人材の育成」とあります。「地域に強い理学療法士の育成」ができるよう、教育と研究を進めていこうと全員張り切っております。

(文責：勘林)



向かって左上から右へ盛田助手、斉藤助手、桜木助手  
向かって左下から右へ李助手、伊藤教授、勘林講師



## 医療福祉分野

### この国に生まれたるの不幸…

(講師/杉山克己)

大正時代、わが国の精神障害者の実態を調査した呉秀三は、精神病になったという苦しみの上に「この国に生まれたるの不幸をかさぬるものと言うべし」と記した。今から80年以上も前のことである。そして、ハンセン病国家賠償訴訟で政府が控訴断念、というニュースがこの国を駆け巡った。あのニュースを詳細に見ていた人は気がつかれたらうが政府や国会だけではなく、この数十年間において医療従事者も家族も患者たちの「不幸」に荷担してきた面がある。例外はあるだろうが、大勢としてはそうだった。今回の原告たちの声を聞いていれば、病が「治癒」すればそれで解決とはいかないことが理解できるだろう。こうした側面は、どのような傷病のときでも大なり小なりある。社会的な問題として考えるべきものもある。

呉の嘆きを、21世紀まで引きずってしまったのは残念だが、社会福祉の一部である医療福祉のより一層の発展の必要を考えた瞬間でもあった…。

## 人間の多様な生き方 (助手/田中志子)

大学生の時、病院での実習中に二人の患者さんの転院に同行する機会がありました。二人の患者さんは性別も年代もほぼ同じで、転院の日時も、転院先の病院も同じ病院でした。しかし、一人の患者さんは家族、親戚数名の方が総出で荷物をまとめ、不安がる患者さんご本人に声をかけていましたが、もう一人の患者さんは看護婦さんが荷物をまとめ、その他の付き添いの方はいらっしやいませんでした。

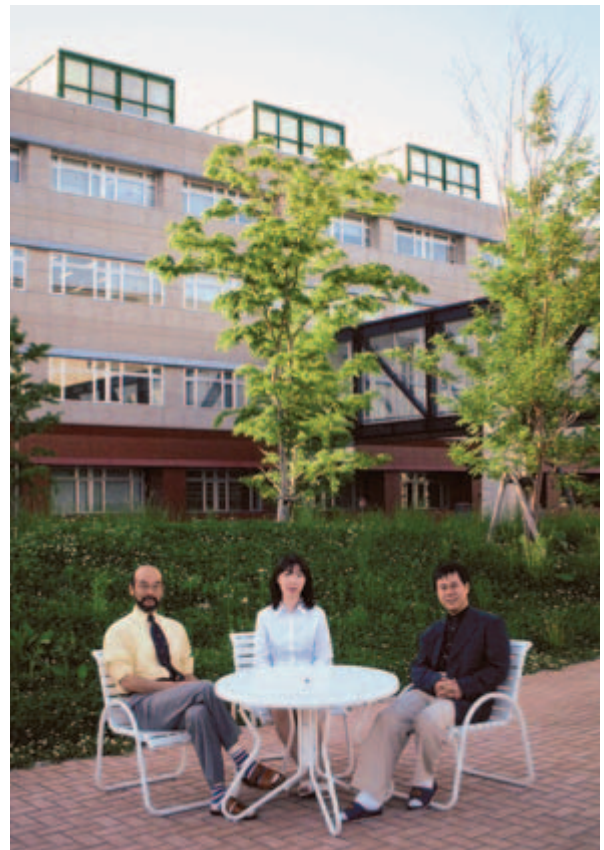
疾病を抱える人びとの社会生活の中で起こる諸問題を解決、軽減していくよう支援することが医療福祉に求められていますが、人間の生き方とは多様なものです。それは健康である時も病気や障害のある時も同じで、どの生き方が一番良いか、または悪いかということではできません。私の出会ったこの二人の患者さんの様子からもまた、それぞれの生き方、生きてきた道を垣間見せていただいたような気がしました。

「人それぞれの生き方を尊重して支援していくこと」は具体的にどのようなかわり方なのか、今も考えている最中です。

## あるソーシャルワーカーの炫き…

(講師/吉川公章)

大学3年の夏、群馬県内の精神病院で初めての实習(泊まり込み2週間)をしていた時だった。当時「作業病棟」といわれていた病棟の入院患者の多くは、父親と同じ年代で、二桁の年数の入院を続けていた方たちだった。彼らは昼間は院外作業療法(コンクリートブロック製造などの単純・肉体労働)を受け、夜は10数人の畳敷きの大部屋で過ごしていた。日曜日にバスで30分程の高崎の街へ出かけることを大きな楽しみにしていたが、それはグループ活動のプログラムの一つだった(学生にとってはこれへの同行は貴重な息抜きの時間)。その後、9月から毎週末2日間の実習を続け、病院や患者さん、実習生という役割(ミニ・ソーシャルワーカー)に慣れてきた頃、ふっと気がついたことがあった。「この人たちはどうしてここ(病院)にいるの」。このことが今に続く出発点だった。精神医療の現場からは離れつつあるが、閉鎖病棟の鍵が閉まる音を初めて背中で聞いた時の寒気と「この人はどうしてここ(病院)にいるの」をきちんと学生に伝えようと思う。



向かって左から吉川講師、田中助手、杉山講師



### 研究テーマ「頭がよくなる食べ物は？」 (助手/井澤弘美)

上記のような大それたテーマを頭の端に置きながら研究を続けています。実際には、脳に酸化的ストレスを与える薬剤を実験動物に投与し記憶学習機能に障害を与え、あらかじめ抗酸化性食品を摂取させることで脳機能低下の抑制効果を検討しています。去年はナガイモを食べさせました。結果は現在解析中です。



最近、食と脳機能の関連が指摘されています。脳も臓器のひとつなので、正しい食生活で機能低下を抑制することができるはずですが。しかし、食と脳機能の関連メカニズムを明らかにするためにはクリアしなければならない問題がたくさんあります。摂取した食品の機能性成分が腸管で吸収されているか？そして脳血管関門を通過するか？更に脳の特定部位で機能を発揮するか？などです。こういった問題に対して試行錯誤を繰り返しながら研究をしています。

### 研究テーマ紹介 (助手/志賀文哉)



研究分野は、まとめて表現すると「保健社会科学」です。医療社会学や医療人類学などがその中に入りますが、簡単にいえば「生活と疾病の社会的関係」についての研究ともいえます。

アプローチは社会科学からなので、生活・文化・習慣や経済状況などが疾病罹患とどのように関係しているかを研究しています。ただ、時点有病率の調査など医学調査も含まれます。「学際的」という言葉がありますが、そういわれる分野は(大抵)曖昧さを含み持ちます。その曖昧さを如何に科学的に証明していくかということが難点でもあり、研究の中心となるところでもあります。現在はタイ王国の南部を中心に、疫学・調査研究や医療協力のあり方について現地の医療者・研究者らと模索しています。基礎調査を重ねる日々ですが、それらの結果を保健教育に反映させたり、費用対効果や費用対便益に優れた方法を導入していくなど、予防医学に資することが最終的な目的です。

### 研究テーマ紹介 (助手/川内規会)

研究領域はコミュニケーション学で「人間の象徴的相互作用の性格・過程と効果の研究」です。特にIntercultural Communication 及び Interpersonal Communication の分野で研究しています。以前は、日本人の言語



観を数カ国にわたって比較してきましたが、現在は保健大学に勤務した事をきっかけに、福祉に目を向け、「高齢者のコミュニケーション形態」に焦点をあてて取り組むようになりました。高齢者の生活環境の違いが、コミュニケーションスキル、コミュニケーション媒体、情報の発信・受信範囲にどのような影響をもたらしているのか調査中です。高齢者にとって健康的なコミュニケーションは行われているものなのか、また、老年期をより幸せに心豊かに生きるためにどのように過ごしたらよいのか、コミュニケーション学の視点から研究しています。

### 研究テーマ紹介 (助手/廣森直子)



学生時代は「成人学習論」を専攻しました。大人の学習についての学問分野ですが、「社会教育」あるいは「生涯学習」などと言ったりします(言葉によって意味が違います)。私は、大人の学習の中でも、特に働く女性の学習に関心を持って研究を進めています。日本では(その社会システムゆえに)働く女性は男性とは異なった学習課題を抱えているのではないのか、という疑問が私の問題関心の出発点でした。働く女性の問題とは、どんな内容で、どこに存在するのか。その問題をどうやって解決していけばいいのか、どうやったら問題解決できる人間(主体)形成ができるのか、そのためにはどのような学習(教育)が必要なのか、といったことを研究しています。むろん、働く女性の問題を考えると不可欠な「フェミニズム」や「ジェンダー」の視点も取り入れています。最近では、その大半が女性によって担われてきた「ケア労働」についての研究もしています。

## (企画情報課長/小野勝義)

保健大学だより第3号の総務課紹介に続き、今回は企画情報課紹介のコーナーを設けていただくことになりましたので、私から企画情報課の概要についてお知らせいたします。

### 1、みんなに知ってほしい企画情報課のこと

企画情報課は、企画、情報システム及び図書館の3つの担当ブロック(事務局ではこれを「シマ」と呼んでいます)に分かれています。

それでは、3つのシマについて簡単に説明させていただきます。

### 2、学生にはなじみの薄い企画のシマ?

企画の仕事は、大きく2つに分けて分担が構成されています。1つは本学の将来構想に係るもので、本学では、平成15年4月の大学院開設に向けて本格的にスタートを切ったところですが、大学院の業務はボリュームもさることながら、設置審への認可申請ということで細心の注意を必要とするものです。もう1つは大学の運営に係るもので、教授会や教員会議等の定例会議及び各種委員会の運営、健康科学研究研修センターと健康科学特別研究費、公開講座等の大学行事と年報等出版事業、文部科学省科学研究費等各種研究助成の取りまとめ等々膨大な業務量となっています。

企画シマには、次の5人が配置されていますが、全員紳士で、かつ、仕事熱心で夜遅くまで残っています(課長の命令で仕方なくかな?)

赤石主幹(企画シマの大黒柱、大学院担当)

木村主幹(頼りになる昼夜の達人、教授会担当)

棟方総括主査(優秀な二枚目、公開講座担当)

日野主事(正体不明な若きパパ、将来構想担当)

石井主事(真面目一直線、特別研究担当)

### 3、学生にも教員にも便利な情報のシマ!!

本学の情報システム全体を一人の担当で管理していますので、学生及び教職員からの問い合わせに対する応対だけでも大変な忙しさになっています。また、情報システムは、日々新しくなっていくことから、開学3年目にして早くも次期新システム導入の検討が始まるどころです。

この4月に転入してきた吉田総括主査は、事務局と情報事務室を毎日夜遅くまで往復していて、可愛い娘と一緒に時間がとれないのではないかと、課長として心配しています。

### 4、誰でも利用できる図書館のシマ!

図書館の仕事は何といっても、図書館資料(図書、視聴覚資料、雑誌)の管理ですが、買って即貸出という訳にはいかなくて、購入すべき図書館資料の選定(図書館運営委員会を開催して決めます)から始まって、購入、装備(勝手に持出しできないようになっていきます)、目録データベース登録という一連の作業を経て、ようやく皆さんの前に並びます。また、図書館の開館は平日は夜の9時までとなっているほか、授業や試験がある場合の土曜日も夕方まで開いています。

図書館シマには、次の5人が配置されていますが、前記のように変則勤務となっているので、他のシマとは違った苦勞があります。

小野主査(北海道出身、「長女」と呼ばれています)

飯島主事(埼玉県出身、シマのまとめ役を期待)

長内図書館囑託(企画シマのお嬢様「次女」)

奈良図書館囑託(最近麗しさを増した「三女」)

北條図書館囑託(長野県出身、やさ男に芯一本)

### 5、泣きもはいつか締めくくりデス

企画情報課はいろんな個性を持った12名で構成されており、全員の頑張りにはものすごく感謝していますが、みんな忙しくて足並み揃えてコミュ(飲み?)ニケーションといかないので、お酒大好き課長としては、そこが唯一残念に思っているところです。

この欄をお読みの皆さん、公私ともにいろんな意味を込めてよろしくお願ひします。

# 人事異動

## <新任・転入等>

(13年4月)



看護学科 教授  
島崎 玲子 (シマザキ レイコ)

青森に来て2か月近くなりますが、今まで私学にいましたので、書類の煩雑さに悩まされています。しかし熱心に授業を聞いて下さる学生さんに感動しました。効果的な指導法を考えながら教育に専念したいと思います。



看護学科 教授  
石鍋 圭子 (イシナベ ケイコ)

3月までリハビリ専門病院でテンテコ舞いをしていました。青森ははじめてですが、窓外の八甲田山の眺めがとても気に入りました。ペーパードライバーが復活するまでは自転車通勤でフィットネスしています。



看護学科 助教授  
中村 由美子 (ナカムラ ユミコ)

20数年ぶりに、故郷である青森に戻ってきました。水の美味しさと温泉の心地よさは昔のまま。感慨にひたりながらも「看護」と問いかけて、皆様と一緒に考え、実践していきたいと思っています。



看護学科 助教授  
大井 けい子 (オオイ ケイコ)

助産学コースを担当します。来年の夏が楽しく実習できるように?! 日々、悩んでいます。与えられたチャンスなので、青森の四季を存分に楽しみたいと考えています。



看護学科 助手  
杉若 裕子 (スギワカ ヒロコ)

はじめまして。看護管理学の講義補助と演習等を担当します。これまで経験してきたことだけでなく、皆様との関わりの中からも多くのことを学び、教育の現場に生かしていきたいと思っています。



看護学科 助手  
佐藤 真由実 (サトウ マユミ)

目の前のことを一つ一つ片付けながら、学生と共に学んで、自分の場所を耕していきたいと思っています。よろしく願います。



看護学科 助手  
赤羽 衣里子 (アカハネ エリコ)

初めての教育現場に戸惑う毎日ですが、やっと手にした愛車で出かけられる余裕が早く持てるようがんばっていききたいと思っています。



看護学科 助手  
秋庭 由佳 (アキバ ユカ)

一年経てば、ぼんやりの私もあんな風に堂々と、そしててきぱきと仕事ができるようになるのかしら? というさか疑問を感じながら、早く皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。



理学療法学科 助手  
盛田 寛明 (モリタ ヒロアキ)

美しい自然や感動的な音楽をこよなく愛する典型的な感覚人間です。日々、常に新鮮な気持ちで楽しく仕事に励みたいと思いません。宜しくお願いします。



社会福祉学科 助教授  
露木 敏子 (ツキキ トシコ)

道端にひょっこり顔を出した土筆の子を手にとり幼き頃の思い出に浸っております。青森の四季の変化は「人にやさしい」と感じています。このよき雰囲気をつつとも失わずに、保健・医療・福祉日本一の県を目指したいものですね。



事務局 総務課長  
菊池 眞樹 (キクチ マサキ)

「たばこ? あれば没个性的な消極的な陶酔だ。酒? 節制の方がはるかに陶酔だ」これはさる禁欲的な文豪の言葉であるが、かく云う自分は酒の虜だ。ビール、ウイスキー。昼な夜なアルコールに取り憑かれている。



事務局 総務課  
藤田 繁行 (フジタ シゲユキ)

十数年ぶりのキャンパスライフ。現在の趣味は釣り、バイク、競馬などですが、最近温泉も好きになりました。とりあえずの目標は、ブラックバスを釣って駆除すること及び大型二輪免許を取ることとします。



事務局 企画情報課  
吉田 誠 (ヨシダ マコト)

県庁との環境の違いにカルチャーショックを受け寝込みましたが、いろんなことが新鮮でとても充実した日々を送らせていただいています(どこまで本当なのでしょうが...)。この機会に先生方から勉強を教えてください、少しはホンツケナンを打破しようと思っています。



事務局 企画情報課  
棟方 寿久 (ムナカタ トシヒサ)

夏は「あせも」になるくらい蒸し暑く、風通しの悪い県庁某課から人員削減のためリストラされ、ネコよりはましだろうということで忙しい本学に拾ってもらいました。でも、ちょっぴり学生気分♥



(13年5月)



事務局 教務学生課

菅 牧子

(スガ マキコ)

初めて本庁の外に異動になり、様々な面での違いに少々戸惑い気味ですが、職場の仲間に恵まれ、気持ちよく働いています。休日は雲谷のテニスコートでリフレッシュ。真っ黒になるのも時間的问题かな。



事務局 教務学生課

対馬 睦夫

(ツジマ ムツオ)

毎日、弘前市から自動車通勤しています。むつ市を振りだしに何度目かの転勤してきましたが、自動車での長距離通勤は初めてです。安全運転に気をつけたいと思います。



事務局 総務課

葛西 昭徳

(カサイ アキノリ)

「スーパーヘビー級」の葛西と申します。体内に蓄積した高カロリーでパワフルに仕事をこなし、大学の布袋（ロック歌手）か恵比須（ビアガーデン）になりたいな、などと思っております。



事務局 総務課

須郷 奈緒美

(スゴウ ナオミ)

高いところが苦手で見晴らしのよすぎる渡り廊下が怖くて使えません。冬期間、完全装備で構内を歩く職員を見かけたらそれはきっと私です。



事務局 企画情報課主事

日野 智之

(ヒノ トモユキ)

共稼ぎの悲しさで、近くの保育園と大学を往復する毎日です。子供と公園で遊んでいるのを見かけましたら、声をかけてください。ついでお菓子（チョコレート）もよろしくお願ひします。



事務局 総務課

館山 朋枝

(タテヤマ トモエ)

出身は平内町。高校の時に青森へ引っ越し、学生時代は千葉で、就職先は八戸・十和田で過ごし、今回の異動でようやく二度目の青森市民となりました。庶務の仕事は初めてです。どうぞよろしくお願ひします。



事務局 教務学生課

三浦 浩紀

(ミウラ ヒロキ)

新採用ですが前職はインターネットプロバイダの転職組。28歳。以前とは全く違う世界に戸惑いがち…ここにきてから学生時代やってたバンドをまたやりたいな～思ったりしてますが興味のある方連絡下さい。



看護学科 教授

パメラ ミナリク

This is the first time I have lived in Japan and I am enjoying it very much. Aomori is a beautiful area, with especially wonderful onsen, delicious food, and picturesque scenery. AUHW is also a beautiful place to work. The faculty and other people in the school are so friendly, gracious, and helpful to both my husband and me that the transition to life here has been easier than expected. The students are lively and interested and I am enjoying getting to know them. I look forward to making a contribution to academic life and learning at AUHW.

### <昇任等>

(13年4月)

教授（健康科学部長兼務）

中村 恵子

教授（附属図書館長兼務）

三栖 郁子

教授（看護学科長兼務）

上泉 和子

教授（理学療法学科長兼務）

佐藤 秀紀

教授（社会福祉学科長兼務）

大和田 猛

教授（人間総合科学科目主任教授兼務）

羽入 辰郎

教授（健康科学研究研修センター研究開発科長兼務）

田嶋 博一

教授（健康科学研究研修センター研修科長兼務）

米澤 國吉

事務局企画情報課

木村 理（総括主査→主幹）

### <転出等>

(13年4月)

健康福祉部副参事 長谷川俊行（事務局総務課から）

政策推進室 白戸 一郎（事務局総務課から）

新幹線・交通政策課 苫米地 満（事務局総務課から）

高齢福祉保険課 打越 誠二（事務局企画情報課から）

健康医療課 工藤 光（事務局教務学生課から）

公営企業局 古跡 健将（事務局企画情報課から）

水産振興課 古林 素子（事務局総務課から）

退職 川口 晴美（理学療法学科から）

## 編 集 後 記

《活彩！保健大学だより》第4号をお届けいたします。21世紀最初の号となります。第3回生を迎え、そろそろフル回転に入ろうとしています。その前に4年次に始まる新たな実習、卒業研究、国家試験、就職などの課題が待っています。本号は新学部長等の挨拶で始まり、合宿研修で盛り上げました。新入生の元気であふれています。新任教職員紹介欄にありますように、予定された教員は今年度でほぼ揃いました。

広報委員の改選がありました。各委員の分担は以下の通りです。委員長および入学者募集専門部会担当：竹森幸一、副委員長および学内広報誌「活彩！保健大学だより」担当：鞠子英雄、情報システム委員会および新入生アンケート担当：鈴木保巳、記録専門部会担当：堀口由美子、各種入試広報（新聞・受験雑誌・ラジオ広報、大学案内、学生募集ポスター）担当：勘林秀行。

本誌をより良いものにするために、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ下さるよう御願いたします。（広報委員長／竹森幸一）

### ◎ 広報委員会委員

竹森幸一、鞠子英雄、勘林秀行、堀口由美子、鈴木保巳、伊藤貞一

### ◎ 記録専門部会

秋庭由佳、李相潤、田中志子、志賀文哉

### ◎ 事務担当

大谷順一（対外広報担当）

對馬睦夫（入試広報担当）

佐々木真也（学内広報誌、広報委員会事務担当）